

小児の事故予防についてのアンケート調査 — 静岡、東京、長野の3地域の比較

宇佐美等¹、梁茂雄¹、宮川美知子²、宮坂周²、野口幸男²、
藤田之彦²、大久保修²、原田研介²

要約：静岡県沼津市、東京都板橋区、長野県上田市で、3才以下の児の母親にアンケート調査を行い746通を回収した。一般的な知識はかなり普及しており、注意の度合いも比較的高いが、特定の装置などの利用は充分ではなかった。浴槽の鍵、チャイルドシートなど、具体的な方法まで含めた教育が必要と思われた。いくつかの質問では有意な地域差を認め、これらは生活習慣の差によるものと思われた。安全教育を行う際には、対象地域の傾向を把握する事が望ましい。

見出し語：小児の事故、安全教育、アンケート調査

はじめに

静岡県では最近数年間にわたってこどもの事故防止についての保健指導が行われている。これが母親の意識や行動に何らかの影響を与えているかどうかを知るため、静岡県、東京都、長野県の3地域で、同一内容のアンケート調査を行った。静岡県は沼津市の公立病院、東京都は板橋区の一般診療所と大学病院、長野県は上田市の一般診療所で、3才以下の児を連れて来院した母親を対象とした。

アンケートの質問内容は、A群として以下の5問。小児の事故についての一般的な知識を問う質問で、いずれも、1) 正しい、2) 正しくない、3)

わからない、から答を選択させた。

A-1. 事故は乳幼児の死因の第1位である。

A-2. タバコの誤飲は命にかかわることが多く危険である。

A-3. ピーナッツは吸い込まれて気管にはいると非常に危険である。

A-4. こんにゃくゼリーがのどにつかえて窒息死する事がある。

A-5. 浴室では、溺れる、やけどなどの重大な事故が起こることがある。

次に、B群として以下の10問。実際の行動や経験を問う質問で、B-10を除いてすべて、1) はい、2) ときどき、3) いいえ、から答を選択させ

1) 沼津市立病院小児科(Department of Pediatrics, Numazu City Hospital)

2) 日本大学医学部小児科(Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine)

た。

B-1. 浴槽に水を貯めておきますか？

B-2. 鍵をかけるなど子どもが一人で浴室に入れないような対策をしていますか？

B-3. 刃物、薬、針などは子どもの手が届かないところに置いていますか？

B-4. 子どもだけを置いて家を留守にすることがありますか？

B-5. 自動車の中に子どもを一人にしておくことがありますか？

B-6. 子どもを車に乗せるときチャイルドシートを使用していますか？

B-7. 家の中の階段や段差のある所には子どもが落ちないように対策がしてありますか？

B-8. 刃物、薬、針などは子どもには開けられない容器にしまっていますか？

B-9. 子どもをソファやベッドなど高いところに置いたときは目を離さないようにしていますか？

B-10. あなたのお子さんは今までに医者にかかるような事故にありましたか？

B群のうち、1、3、4、5、9は、各々の事柄に注意しているかどうか(B-I群)、2、6、7、8は特定の器具、設備などを使用しているかどうかを質問しており(B-II群)、これらは質的にやや異なっている。

静岡県では上記の保健指導の一環として母子手帳に小児の事故についての記事が加えられているため、沼津市ではこれについての質問も行った。検定は χ^2 検定を用い、 $p < 0.05$ を有意とした。

結果

1) 各地域別の回収数は、長野県上田市 200、東京都板橋区 350、静岡県沼津市 196、合計

746であった。

2) A群の質問について(表1)

正答率は63-96%(平均87%)であり、正答率が最も低かったのはA-1の63%、次いでA-4の86%であった。残りは正答率は94-98%と高かった。

地域差を認めたのは2項目で、A-1では、静岡岡での正答率が東京と比べて有意に高く、A-2では「正しい」の回答が、東京と比べて静岡では有意に少なかった。

3) B群の質問について(表2)

ここでは良い回答の率を正答率とした。例えば、B-5では「いいえ」の率、B-6では「はい」の率、とした。正答率は36%から95%と幅があり平均66%、そのうちB-I群の平均は77%、B-II群の平均は53%と有意差($p < 0.05$)があった。

地域差について、B-1では「いいえ」が58%と高く、東京に比較して有意差を認めた。B-4では正答率は長野が91%と他県の73-79%と比較して有意差があった。B-5では、正答率は東京が95%と極端に高く、他県の69-78%と有意差があった。B-6では、静岡が最高で、東京との間に有意差を認めた。事故の経験率は17-23%と多少の地域差はあるが有意ではなかった。

4) 沼津市での調査

195人中81名(41%)が母子手帳に小児事故の予防のページがあることを知らなかった。しかも、知っている母親114名のうち22名(19%)は読んでいないと答えており、読んだのは90名(46%)にすぎなかった。母親の年齢、こどもの数には一定の傾向はみられなかった。

母子手帳を読んだ感想として、挿し絵を加えてほしい31%、もっとくわしく知りたい20%、もっと具体的に知りたい43%などの感想があ

った。母子手帳を読んだ群と読まない群で正答率を比較すると、A群の延べ正答率は91%と85%で読んだ群で有意に($p < .010$)高かった。またB群については、B-6、B-7では読んだ群で正答率が有意に($p < .050$)高かった。B群のうち、B-I群では正答率は78%差はなかったが、B-II群では読んだ母親では正答率64%に対して読まなかった母親の正答率52%と有意差($p < .005$)がみられ、B群全体でも読んだ母親で72%に対して読まなかった母親で66%と有意差($p < .025$)がみられた。

考案

一般的知識の有無をみる質問群での正答率は平均87%、実際の行動についての質問群では66%と有意差があった。さらに、注意しているかどうかを質問した群では正答率は平均77%、特定の器具・装置の使用を質問した群では平均53%と、有意差を認めた。一般的な知識はかなり普及しているが、実際の行動はこれに伴っておらず、安全のための器具や装置の使用は不十分であることがわかる。

いくつかの項目では顕著な地域差が認められた。例えば、子どもだけを置いて家を留守にすることはない、と答えたのは長野では91%で、東京、静岡に較べて明かに高い。ところが、自動車の中に子どもを一人にしておくことはないと答えたのは長野県では69%と低く、東京の95%と大差を認めた。これらの地域差は、車または自宅で子どもを一人にする危険性に対する認識の差を反映しているのではなく、家族構成や駐車場の多寡などの生活環境の差を反映しているものと思われた。浴槽に水を貯めない率、チャイルドシートの使用率は静岡で有意に高か

った。事故予防のための教育や、評価を行うに当たっては、対象地域の特性をあらかじめ把握しておく必要があると思われた。

静岡独自の母子手帳の中の事故予防の頁を読んだ母親は46%にすぎなかった。読んだ母親では、読まなかった母親に較べて、チャイルドシート使用率、こどもの落ちない対策をしている率が有意に高く、A群、B-II群の正答率も高かった。これらの差が、もともと事故予防に関心が高い優等生的な母親だから読んでいるのか、事故予防のページを読んだ結果を反映しているのか、についてはこの調査からは何とも言えない。

結論

1. こどもの事故について一般的な知識はかなり普及しており、注意の度合いも比較的高いが、特定のハードウェアの利用度はまだ充分ではなかった。
2. 一般的な知識の啓発、注意の喚起だけではなく、例えば、浴槽の鍵、チャイルドシートの使用など、具体的な方法まで含めた教育が必要と思われた。
3. 家族構成、生活習慣などの地域差は、こどもの事故予防にも影響を与えられる。安全教育の前に、対象地域の傾向を把握する必要がある。

表1. A: 一般的知識について

	全体	静岡	長野	東京
○ A1: 事故は乳幼児の死因の第1位	63%	69%	62%	60%
○ A2: タバコの誤飲は危険	96%	91%	98%	97%
A3: ピーナッツは危険	94%	96%	94%	92%
A4: こんにゃくゼリー	86%	86%	87%	85%
A5: 浴室では重大な事故が起こる	98%	99%	98%	97%

A1: 静岡/東京 $p < .050$

A2: 静岡/東京 $p < .005$ 、静岡/長野 $p < .005$

表2. B: 日常の行動について

	全体	静岡	長野	東京
○ B1: 浴槽に水を貯める?	46%	58%	45%	39%
B2: 浴室に鍵など	36%	37%	37%	35%
B3: 手が届かないところに置く?	95%	95%	95%	95%
○ B4: 子どもを置いて留守にする?	80%	79%	91%	73%
○ B5: 車に子どもを一人にする?	84%	78%	69%	95%
○ B6: チャイルドシートを使用?	51%	62%	53%	44%
B7: 子どもが落ちない対策?	46%	48%	50%	43%
B8: 安全な容器?	77%	75%	75%	80%
B9: 目を離さない?	81%	79%	78%	84%
B10: 事故の経験?	20%	17%	18%	23%

B1: 静岡/東京 $p < .005$

B4: 東京/長野 $p < .005$ 、静岡/長野 $p < .005$

B5: 静岡/東京 $p < .005$ 、長野/東京 $p < .005$

B6: 静岡/東京 $p < .005$



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:静岡県沼津市、東京都板橋区、長野県上田市で、3才以下の児の母親にアンケート調査を行い746通を回収した。一般的な知識はかなり普及しており、注意の度合いも比較的高いが、特定の装置などの利用は充分ではなかった。浴槽の鍵、チャイルドシートなど、具体的な方法まで含めた教育が必要と思われた。いくつかの質問では有意な地域差を認め、これらは生活習慣の差によるものと思われた。安全教育を行う際には、対象地域の傾向を把握する事が望ましい。